

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601008	事業の開始年月日	平成28年11月1日
		指定年月日	平成28年11月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア東林グループホーム		
所在地	(252-0312) 神奈川県相模原市南区相南1-7-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果 市町村受理日	令和2年11月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最寄小田急江ノ島線東林間駅より徒歩7分の閑静住宅地に立地。近隣には緑の楽しめる水道道路や東林間神社があります。「暮らしの場」としておだやかで明るく過ごせる時間・空間をめざしています。経験のないスタッフもおりますが、日々のチームプレーや教育研修を通じて、ご利用者に寄り添い、支えることのできる「よく見て、考えて、動ける」職員集団を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年10月7日	評価機関 評価決定日	令和2年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は小田急江ノ島線「東林間」駅下車徒歩7分のところで、大通りからやや入った住宅地の一角にあります。近くにはコンビニエンスストアやドラッグストア、公園、公民館などの社会資源のある住環境です。開設4年目を迎え、地域の環境に溶け込んだ木造2階建て2ユニットの事業所です。

<優れている点>

法人の理念のもと事業所の独自の理念を作り、利用者一人ひとりに寄り添い、尊厳を重んじ、その人らしい生活を送れるよう支援しています。年間事業計画では月々の行事の他毎月の研修計画を実施し、法人の資格取得支援制度と共に人材育成とサービスの向上に努めています。毎月のフロア会議では日々のサービスのふり返りや業務の見直しを図り、サービスの質の向上に努めています。管理者以下職員のコミュニケーションの徹底、職員間の信頼関係の確立、サービスの内容や情報の共有など、チームワークの構築を図り利用者への支援に取り組んでいます。

<工夫点>

毎月のフロア会議は基本フロア担当全職員の参加を基本として行っています。夕方からの開始を午前中に替えるなど工夫をしたことで出席率が上がり、利用者の情報の共有化や職員相互のコミュニケーションが密になっています。また、「親しい人に勧めたいホームになろう」を今年度の目標に掲げ職員の業務の意識付けを図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人経営理念を毎朝礼で確認唱和、施設運営に則した訓話実施。施設の目指す方向がわかりやすく理解できる理念を検討している。	法人の理念を踏まえて事業所の理念を作り、玄関に掲げ職員の共有を図っています。職員は利用者の尊厳を重んじ、利用者のその人らしい生活の支援を目指し、実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩、外気浴の際や、窓越し等、ご利用者はじめスタッフにもこちらからの挨拶を奨励している。災害時の近隣マンパワー協力の依頼。コロナ対応の新生活様式を踏まえた活動の検討が必要。	自治会に加入し、回覧で地域の情報を得ています。コロナ禍で控えています。地域の祭りや支援センターのカフェへ出かけ地域との交流をしています。楽器の演奏、歌のボランティアや介護実習の受け入れ、幼稚園児とのふれあいがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	本年度の運営推進会議はコロナ感染拡大防止の観点から運営概況資料送付による文書会議としている。コロナ対応の新生活様式を踏まえて支援の方法の検討が必要。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を文書会議として自治会や民生委員に運営報告している。双方向の情報や意見の交換はできていないので、オンラインでの対話等の検討が必要。	会議は2ヶ月ごと年6回、コロナ禍行政の指導で文書会議に替えて実施しています。委員は自治会長、民生委員、地域包括支援センター担当者、家族です。事業所の活動状況や運営状況の報告が主です。委員には会議資料を送り共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設マンスリー届け等の際、適宜情報提供、相談している。	行政から困難事例の相談など連携を図っています。福祉窓口のケースワーカーの来訪があります。利用者の退去などについて地域包括支援センターと連携して対応しています。グループホーム連絡会への参加は現況控えています。	運営推進会議の議事録の送付を通し、区の担当課に事業所の実情を報告することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束防止委員会を3月に1回以上実施し、拘束防止に関する調査、職員への研修の実施等を行っている。玄関に関しては、日常生活同レベルの施錠実施。声かけにて開放。	職員は年2回の研修会の実施や拘束防止委員会を通して、拘束の弊害について理解しています。不適切な言葉について、事例があれば都度注意啓蒙を図っています。玄関や各フロアのドアは安全確保上施錠しています。利用者の外出の気配があれば職員の同行見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政パンフレットを使って施設内研修を実施している。ご利用希望の際には最新情報にアクセス、ご案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等でご紹介したりもしている。ご意見箱を設置。	家族の来訪の際は要望や意見を聞いています。家族とは、毎月発行の「東林だより」や電話などで日頃からコミュニケーションを図っています。家族の個別ケアについての要望や意見は運営に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。	職員の意見や要望などはフロア会議や個別の面談の機会に聞いています。管理者は日頃から職員の意見や要望が自由に言える職場環境を作っています。職員から脱衣室の柵設置や安全、衛生についての改善提案、誕生会の企画など運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守。モチベーションアップ等にさらに考えたり、話合える時間や環境づくりが必要と考える。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の階層ごとに年間を通じた研修を実施。資格取得に対する法人援助の活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人他施設職員との会合・研修・イベントしている。コロナの影響で業態管理者連絡会や行政主導研修会には参加できていないが、行政の指導に従った対応をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々な様子を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	マンスリーやイベント等のお知らせをはじめ、定期的に電話でご様子をお知らせして、来所を促している。	友人や知人の来訪があり居室で湯茶の接待をしています。電話や手紙の交信の継続の支援をしています。家族の協力で墓参り、一時帰宅、散歩、礼拝などの継続の支援をしています。折り紙や絵、生花などの趣味の継続支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行。	日常生活の会話を通して把握しています。生活歴や家族の協力で好きなこと、得意なことなどを把握しています。職員と1対1の場の会話で聞いています。意思表示の困難な利用者は態度や素振り、目線などのサインで汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報、ケアプラン等の情報環境整備によりスタッフがご利用者情報を共有しやすいよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。「身」に対し、「心」への洞察がまだまだ少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状、家族の意向確認や意見把握の機会が少ない。スタッフの介護計画に対する認識や意識、関心が低い。カンファレンスの形態や頻度を改編中。	モニタリングは3ヶ月ごとに実施、ケアプランを作成しています。作成に当たっては、全職員や計画担当、管理者の参加で行っています。ケアプランには本人や家族の要望、医療情報も反映しています。ケア日誌にはプランが併記しており職員は常に共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の書き方はじめ視点、意義を日常的な点検指導教育するとともに、スタッフ間の情報共有手段やツールの改善を図っている。記録とケアプランの関連の関係性を明らかにする教育研修を定期的に行っている。記録書式を改定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクや趣味分野拡充等、スタッフならびにボランティアに依存度高い。運営法人他業態の情報や資産の共有活用。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行政ボランティア受入協力機関登録済み、新生活様式を踏まえた活用の検討が必要。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。	現在は全利用者が事業所の協力医をかかりつけ医としています。通院は基本は家族対応としていますが、状況に応じて職員が付き添っています。看護職員がいるので利用者の健康面での相談をしたり、アドバイスを受けたりしやすい環境があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1度の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話にて報告、指示受にて対応。状況報告方法や必要機材物品の所在等の理解把握を励行。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院Sw等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付しているが、実際に適応事例がまだ発生していない。	入居時に「重度化した場合及び看取りの対応に関する指針」を説明をしています。重度化と主治医が判断した場合には、再度話し合い、方針を共有しています。最近看取り介護の事例があり、次回の会議で振り返りカンファレンスを行う予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めているが、定期的な教育・訓練量が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、教育ならびに訓練の機会を創設。運営推進会議で地域との防災に関する互助の意見交換等を行っている。近隣住戸に火災時等の援助協力要請。	今年度は9月に自主訓練を行っています。次回は夜間想定を含む訓練の予定です。運営推進会議の中で、防災に関する意見交換や協力依頼をしています。災害対策用品備蓄リストの備えがあります。一部が賞味期限切れとなっています。	賞味期限切れの備蓄品に関しては、法人の指示を受けながら入れ替えを行っていく予定です。計画通りの実行が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の申し送りや指導、教育研修等を通じ、画一的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。	人権、認知症理解、接遇など内部研修で理解を深めています。利用者を敬う気持ちを持ちつつ、一人ひとりの個性や考え方によりケースバイケースの対応をしながら信頼関係を築いています。本人の状況をよく見て、業務優先にならないよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。詳細は施設長がご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕事をする側のペースや都合が支配的になる可能性は常にある。個人の意向を全否定するのではなく、他利用者やスタッフまで含めた集団での生活であることに思いをめぐらせていただけるような声かけを励行。その日の意向を聞くこと自体はあまりできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	昼間と夜間就寝時の更衣、衣服選びをご利用者とできるよう励行。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの説明や話題による食欲増進を励行している。食事準備に参加していただくことによっても食欲増進が期待できるが、展開できていない。	委託業者から届く食材を職員が調理をしています。利用者は盛り付け、下膳、食器洗いなど関わっています。生活習慣に配慮し、毎朝パン食にすることも個別対応しています。土用のうなぎ、秋の味覚のマツタケごはん、おやつ作りなど食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食物形態等にも考慮して対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行しているが、口腔内のチェックがまだ不十分。訪問診療歯科の恒常のご利用が少人数なので、口腔点検等のスキルアップしたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導、ポータブルトイレ活用にて失禁減少に努めている。排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。	自立度の高い利用者は自分のペースでトイレに行っています。支援が必要な場合は様子を見ながら声かけや誘導をしています。夜間もポータブルトイレ、トイレ誘導など個別に対応しています。職員の適切な支援で失禁が減っている事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者ごと入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応。	1階の浴室に機械浴の設置があるので、介護度の高い利用者も湯舟で体を温めることができます。1階ユニットは浴槽の湯をその都度入れ替えています。拒否が強い場合も本人の気持ちや清潔面に配慮しながらチームワークで対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者それぞれの状況に合わせ対応。布団干しや空気入れ替えを励行。夜間トイレ誘導頻度等も日々、状況に合わせ対応。各フロアの音の響きに留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習励行。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備。変更時には変更メモ発信。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。全体でのレク以外に個人生活史等の把握から個別関心事や経験に基づいたレク等の提案が不十分。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応。フロア状況に応じて散歩実施。法人経営の畑での作物収穫、法人全体での外部施設での運動会等に参加。	新型コロナウイルスの影響が続いていますが、少しずつ日々の散歩や買い物を再開し、気分転換を図っています。法人所有の畑で野菜の収穫をしたり、初詣、花見、アジサイ鑑賞をしたり、外出を楽しめるようにしています。家族対応で個別の外出もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品メモ作成による依頼で対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。郵便も信書の自由・秘密保障を基本に、ご本人の状況を考慮し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。	リビングや廊下の共用の空間はゆったりとした造りになっているため明るさを感じます。清潔で気になる臭いもなく、快適な環境を整えています。壁には、季節を感じる作品や行事の写真を飾っています。午後はレクリエーションで利用者同士が関わる時間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。	仏壇、卓袱台、ハンチングなど大切にしているもの、馴染みの品々を持ち込んでいます。時折自らレイアウトを変更している利用者もいます。家族が用意した花々で生け花をしたり、好きな絵を描いたり居室で思い思いに過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。		

事業所名	アクア東林グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人経営理念を毎朝礼で確認唱和、施設運営に則した訓話実施。施設の目指す方向がわかりやすく理解できる理念を検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	買い物、散歩、外気浴の際や、窓越し等、ご利用者はじめスタッフにもこちらからの挨拶を奨励している。災害時の近隣マンパワー協力の依頼。コロナ対応の新生活様式を踏まえた活動の検討が必要。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	本年度の運営推進会議はコロナ感染拡大防止の観点から運営概況資料送付による文書会議としている。コロナ対応の新生活様式を踏まえて支援の方法の検討が必要。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を文書会議として自治会や民生委員に運営報告している。双方向の情報や意見の交換はできていないので、オンラインでの対話等の検討が必要。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営会議議事録提出ほか、施設マンスリー届け等の際、適宜情報提供、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束防止委員会を3月に1回以上実施し、拘束防止に関する調査、職員への研修の実施等を行っている。玄関に関しては、日常生活同レベルの施錠実施。声かけにて開放。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修実施、事例に応じた指導、県自己点検シートの活用等とともに、スタッフを孤立させない、話し合える職場環境づくりに留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	行政パンフレットを使って施設内研修を実施している。ご利用希望の際には最新情報にアクセス、ご案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設長に加え、本社営業職員も同席する形での説明・契約締結を基本としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	挨拶や話しやすい雰囲気や環境づくりを励行、日々のお話からの事柄を運営推進会議等でご紹介したりもしている。ご意見箱を設置。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談設定のほか、日々話しやすい雰囲気や環境づくりに留意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業績に応じた賞与含む給与体系であり、コンプライアンス遵守。モチベーションアップ等にさらに考えたり、話合える時間や環境づくりが必要と考える。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では毎月研修を実施、法人としても新人・中堅・リーダー・管理者の階層ごとに年間を通じた研修を実施。資格取得に対する法人援助の活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人他施設職員との会合・研修・イベントしている。コロナの影響で業態管理者連絡会や行政主導研修会には参加できていないが、行政の指導に従った対応をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネ、施設長、法人営業員によるヒアリングや質疑内容等を共有化するよう努めている。また言いにくい事柄も話していただけるよう面談の雰囲気づくり等も留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居検討時は他施設利用案内も視野に入れお話を伺っている。施設として「できること」「できないこと」「できていないこと」も正直にお伝えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフに「入居者の暮らしを支える立場」とはどういうことか、日々の現場で教育しつつ、いっしょに動くことができ、できることを奪わない介護に留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入所後もご家族は大事な介護者であることをお話申し上げている。日々の様々な様子を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	マンスリーやイベント等のお知らせをはじめ、定期的に電話でご様子をお知らせして、来所を促している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間社会として利用者間でも喜怒哀楽さまざまな感情が生起するのは、自然であり、暴力やトラウマにならないよう見守り、必要と思われる際にはとりなしを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時に協力継続の確認を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のシーンの中で意向や思いを聞き出せるような声かけを励行。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報、ケアプラン等の情報環境整備によりスタッフがご利用者情報を共有しやすいよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	全体ならびにユニット毎で日々申し送り、日報ならびに記録の運用にて共有化に努めている。「身」に対し、「心」への洞察がまだまだ少ない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現状、家族の意向確認や意見把握の機会が少ない。スタッフの介護計画に対する認識や意識、関心が低い。カンファレンスの形態や頻度を改編中。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の書き方はじめ視点、意義を日常的な点検指導教育するとともに、スタッフ間の情報共有手段やツールの改善を図っている。記録とケアプランの関連の関係性を明らかにする教育研修を定期的に行っている。記録書式を改定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクや趣味分野拡充等、スタッフならびにボランティアに依存度高い。運営法人他業態の情報や資産の共有活用。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行政ボランティア受入協力機関登録済み、新生活様式を踏まえた活用の検討が必要。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期訪問診療時はじめ的確な状況伝達を励行。早期迅速な外部受診手配等を心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1度の看護職員来設時には、報告・相談を行い、適宜指導を受けている。夜間等看護職員不在時には電話にて報告、指示受にて対応。状況報告方法や必要機材物品の所在等の理解把握を励行。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往症や薬はじめ利用者情報の迅速な提供体制を整え、ご家族と共に極力随行対応して情報提供を図っている。またそうした機会に各病院Sw等の繋がりを構築できるよう留意している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化の際の対応や看取り指針等説明、同意、交付しているが、実際に適応事例がまだ発生していない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	手順や情報、機材を整備するとともに、個々の事例の際、反省と教訓の普及に努めているが、定期的な教育・訓練量が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、教育ならびに訓練の機会を創設。運営推進会議で地域との防災に関する互助の意見交換等を行っている。近隣住戸に火災時等の援助協力要請。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフには個別対応指示、日々の申し送りや指導、教育研修等を通じ、画一的ではない、それぞれのご利用者の「個」の理解と尊重を働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフに、ご利用者が色々相談したり、話すことのできる信頼関係や雰囲気づくりを励行している。詳細は施設長がご利用者と個別に面談し、詳細を聞き取ったうえで、実現や解決を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	仕事をする側のペースや都合が支配的になる可能性は常にある。個人の意向を全否定するのではなく、他利用者やスタッフまで含めた集団での生活であることに思いをめぐらせていただけるような声かけを励行。その日の意向を聞くこと自体はあまりできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	昼間と夜間就寝時の更衣、衣服選びをご利用者とできるよう励行。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	当日のメニューの説明や話題による食欲増進を励行している。食事準備に参加していただくことによっても食欲増進が期待できるが、展開できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	記録に基づき時系列的観察・点検を励行している。体調変化時等は摂食時間、食物形態等にも考慮して対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを励行しているが、口腔内のチェックがまだ不十分。訪問診療歯科の恒常のご利用が少人数なので、口腔点検等のスキルアップしたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時的トイレ誘導、ポータブルトイレ活用にて失禁減少に努めている。排泄記録に基づくタイミングの調整等を励行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操、水分摂取量維持、牛乳提供等、自然な排泄の維持に心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者ごと入浴曜日を設定しているが、体調や状況に応じて対応。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者それぞれの状況に合わせて対応。布団干しや空気入れを励行。夜間トイレ誘導頻度等も日々、状況に合わせて対応。各フロアの音の響きに留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療時の随伴、薬情報の内容把握、配薬セット、服薬確認等通じて確認、学習励行。薬情報等のファイル等を閲覧しやすいよう整備。変更時には変更メモ発信。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者それぞれに応じた役割や仕事の発見、試行を励行し、充実化に向け取り組んでいる。全体でのレク以外に個人生活史等の把握から個別関心事や経験に基づいたレク等の提案が不十分。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	定期的な外気浴を励行、買い物等の外出にはスタッフ随行にて対応。フロア状況に応じて散歩実施。法人経営の畑での作物収穫、法人全体での外部施設での運動会等に参加。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ならびに施設による日常的金銭等管理委託契約に基づいて運用している。スタッフ随行による買い物、希望品メモ作成による依頼で対応。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちでない利用者は、施設電話での送受をいただいている。郵便も信書の自由・秘密保障を基本に、ご本人の状況を考慮し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔・安全を優先して運用、日々定期的に窓開け励行し、自然光や風を取り込み、近隣の植栽等を楽しめる様配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用部分に個別遮蔽されたスペースは設置されていないが、必要な際は面談室、事務室を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	装飾、調度品等、馴染みの品々の持ち込みをいただき、レイアウトはじめ「自分」らしい居室で過ごしていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全トイレ車椅子対応、廊下・階段等の手摺り設置や、車椅子擦れ違いの出来る廊下幅、トイレ等のサインを盛り込んだ施設設計・運用となっている。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 アクア東林グループホーム

作成日：令和2年11月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	○市町村との連携 運営推進会議の議事録を送付を通し、区の担当課に事務所の実情を報告すること。	運営推進会議は2ヶ月毎年6回、コロナ禍行政の指導で文書会議に替えて実施している。不明点、意見、質問などの問い合わせを含めた記録を作成して、担当課へ報告する。	開催月（奇数月）15日頃に会議メンバーに文書会議の資料を配布、郵送する。月末に問い合わせを含めた記録を作成して、福祉基盤課に報告する。（令和2年度4回分を12月20日までに報告）	1ヶ月
2	13	○災害対策 備蓄品の中に賞味期限切れのものがある。（ペットボトル水 18本）	賞味期限切れの備蓄品に関しては、法人の指示を受けながら、計画的に入れ替えを行っていく。 飲料水の備蓄必要数：一人1日1.5リットル×3日×23人（18部屋＋5人）＝103.5リットル（2リットル水：52本）	保存水備蓄36本（'22年8月）、法人の指示を受けながら、16本追加する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月